

民謡・童謡詩人

野口雨情と秩父三峰

武内 優（会員）



はじめに

東京都・山梨県・群馬県に隣接し、面積では埼玉県の四分の一を占める秩父路は四季折々の自然環境に恵まれ、秩父夜祭りをはじめ年間三百余の祭り、各種民俗行事、伝承文化に恵まれ、三峯神社・秩父神社・宝登山神社三社および、秩父札所、七草寺、七福神、十三仏などの信仰の里です。そして、和銅遺跡や秩父事件に代表される歴史の世界。加えて吉田、大滝地区を中心に広く分布する日本武尊伝説、平将門伝説、畠山重忠伝説など伝説の宝庫です。

その峠の国、山峡の里秩父路は、古くから多くの文人が訪れております。大正年間以降詩人だけ取り上げてみても斎藤茂吉・土屋文明・前田夕暮・宮澤賢治・若山牧水など豪華な顔ぶれで、そのほと

んど多くの人たちが三峯神社にも足跡を印しているのです。

その中斎藤茂吉は大正十五年の夏、アラギ派の歌人、八十三人を三峯神社に呼び寄せ六泊の山ごもりの研鑽会を挙行しております。前田夕暮は年老いた身で夫人共々大滝の入川溪谷の行き止まりの山里に住み、都会とは異なり不自由な生活を心配した家族に連れ戻されます。主の居ない裸電球の照明の粗末な建物の近くには、現地で詠んだ夕暮の作品の歌碑が立っています。宮澤賢治は三峯神社に宿泊し、訪問先の各地で多くの作品を詠み、その一部は小鹿野町に四か所、長瀬町に二か所、歌碑が建立されており、また若山牧水は三度秩父路を訪れ、その中一度は信州・甲州を経て徒歩で山越えし三峯神社を訪れるという、車社会の現代人には想像もできない健脚ぶりで、宮澤賢治同様、訪問先の各地で多くの作品を

詠み残し、長瀬町に一か所、そして秩父市羊山公園の牧水の滝には喜志子夫人との比翼の歌碑が訪れる人を迎えております。ちなみに現在、卒業式の定番として全国で広く歌われている「旅立ちの日に」は、若山牧水研究家で秩父市立影森中学校に在籍していた小島登校長と、うら若い女性の音楽教師・高橋浩美先生との共同作品なのです。

なぜかあまり知られておりませんがもう一人、秩父を訪れている著名な詩人がいたのです。その人とは今回紹介する野口雨情です。雨情は北原白秋・西條八十と共に、明治・大正・そして昭和初期にかけて、民謡・童謡界の三巨匠と呼称されております。しかし秩父路の雨情は宿泊した旅館が火災に遭ったり、廃業などにより宿泊資料や情報などが残されておらず、足跡も消息も不明のままの状態でした。



秩父のシンボル武甲山と秩父市街

そこで雨情の故

郷・磯原や、雨情作品を数多く作曲している中山晋平の故郷・長野県中野市の記念館など、雨情関連の施設や関係者に接触を重ねたり、都内永田町の国会図書館、横浜の日本新聞博物館に足を運んだりする中で少しずつ資料や情報が得られるようになりました。

雨情が生涯に詠んだ三千点余の作品中、民謡作品の「旅の風草」は、全国四十七都道府県に加え、当時日本が治めていた樺太（現・サハリン）、朝鮮、台湾の計五十件の代表作の各二編ずつ、合計百編の作品は、『全国民謡かるた』にもなり紹介されています。その中で埼玉を代表して選ばれているのは、

秩父山奥 谷間の水も

今は長瀬 とろ流れ

の長瀬と、

朝にや朝霧 夕べにや狭霧

秩父三峰 霧の中

の三峰を読み込んだ二作品なのです。

「うぶぶぶし」

ところで現在までに判明している雨情が埼玉を詠んだ作品は、「越生小唄」と「山吹の里」の二編以外はすべて秩父を紹介したものです。その秩父の作品は、前記長瀬と三峰の作品を収めた「埼玉民謡」および次に紹介する「ちちぶぶし」などです。「ちちぶぶし」は秩父の自然景観にはじまり、観光・産業・祭り・札所、さらに秩父気質まで折り込み、見事なまでに秩父

の全容を十六篇の作品に仕上げております。観光部門一つ取り上げてみても、半世紀以上経過した現在を見据えた雨情の目に狂いはなく、すべて現



長瀬の流れ

在の秩父路の観光資源・観光名所となっている幻の名作です。

探し求めて行く過程で何点か所有者に巡り逢えました。そのひとつ、

時鳥啼く 三峰秩父

寶登山まで 空を行く

の所有者、秩父市荒川日野の横田進氏はこの作品の入手経路の説明後、実は「船頭小唄」のような退廃的な作者は好きではなかったし、作品も評価しなかったといえます。しかしある時庭先に出て何気なく空を見ていたところ、上流の三峰から下流の長瀬に向かい時鳥が啼きながら飛んで行くのを偶然見たといいます。中空を飛ぶ時鳥の習性まで熟知し、その上三峯神社、秩父神社、宝登山神社三社まで詠み込んでいると思われる雨情には敬意を覚え、認識を改め作品への愛着も湧いてきたといえます。横田氏はこの作品を親族の形見分けで入手したといい市内に住む弟さん宅にも有ると紹介されたのが次の作品、

生まれつきなら 秩父の気質

深い情も 熱くなる

という秩父気質を詠み込んだものです。また市内荒川白久、皆野町と併せ、秩父地方に古くから伝わる人形芝居の家元・若林新一郎氏の厳父・宗介氏は当時、横

瀬町教育委員長で、『横瀬町史 人と土』（横瀬町刊）によると、雨情と若林氏は親交の仲で、昭和十二年から十八年にかけて市内の中村屋旅館などで幾度も酒を汲み交わしたといっています。「ちちぶぶし」の冒頭の作品、

秩父銘仙 機場の煙り

空になびいて 絶えやせぬ

は、雨情を機場などを案内したお礼にと、雨情が若林家に贈ったものです。

「船頭小唄」「波浮の港」「三朝小唄」などで一躍観光ブームや、町おこしを演出させた雨情作品の中で、「ちちぶぶし」が脚光を浴びることなく、永く埋もれたまま今日に至っているのは、一体なぜなのでしょう。

雨情と秩父三峰

雨情は東京から三峰まで丸一日も要した秩父路の交通

機関がまだ不便の時代、三度も秩父を訪れ三度も三峯神社を参拝しているのです。最初は大正十二年で、仲



▶雨情直筆の「ちちぶぶし」半折

介の労を執ったのは当時秩父町立図書館長・根岸萬作氏で秩父三峰を詠んだ作品はこの年の作といわれています。二度目は大正十五年で、三峰山で秩父地域の校長先生を集め童謡の講話を行い、参加した校長先生全員に半折と短冊の二作品をくばったといっています。その中の一件が市内の宮地地区の開業医師宅の、「人生は随筆なり」と大書した半折と、長瀬を詠んだ短冊で今も大切に保存されています。

さらに戦時色の濃い昭和十六年九月、依頼された秩父商業学校校歌の制作を兼ね、三度三峯神社を訪れ、この折参拝記念の署名以外、秩父路での雨情自身の記録は何一つ見つかっておりません。

雨情は秩父の山を愛していたといわれ、雨情と秩父の山のつながりを末永く残そうと、根岸氏ならびに大河原正見司書、三峯神社の宮澤宮司らで、「秩父三峰」の歌碑建立を図ったところ、篆刻の名手・清水伯翁氏（写真家清水武甲氏の厳父）も皆さんの友情に私も……と参加され、清水氏は自ら石を選ばれ三か



三峯神社

月程で仕上げ、雨情ゆかりの歌碑が三峰山上に建てられたのです。郷土を代表する写真家で作家でもある清水武甲氏は、自著の中で三峰山の霧に触れ、「この山の霧は秩父地域の中、どの景観にも優る」と絶賛されており、雨情の歌碑、

「十一月二十三日、日 晴 五度 五
ト 本日十一時より歌人野口雨情先生歌
碑三峰公園地内に建設中なりしが関係者
を招待して除幕式挙行修祓式地鎮祭齋主
宮澤宮司祭員は廣瀬権宮司外神事部員奉
仕歌碑除幕式に参列せる方々のお名前雨
情會幹事権藤圓立雨情未亡人野口つる様
外一名秩父市立

図書館長根岸萬
作同館司書大河
原正見秩父市教
育長鶴澤福松氏
奉納関係者清水
伯翁師とその家
族（以下略）」

三峯神社参拝
の折、雨情は駕

籠を利用したこともあるといわれますが、
鉄道も交通網も未開拓の時代、雨情を山
間僻地の三峰へ駆り立てたものはいかなる
ものであろうか。それは雨情の故郷・茨城
県磯原に広く伝
わる「お狗様」信仰の延長に三峯神社の
存在があったと推察されます。そう言え
ば雨情がこの地で詠んだという、

わしが願ひは お狗さまよ

家内安全 ただひとつ

に至っては、まさに「お狗様」信仰その
ものです、また先に紹介した『全国民謡



秩父三峰の歌碑

かるた』の秩父三峰の絵札は霧ではなく、
「お狗様」なのです。それにしても秩父
路の雨情は「三峰の霧」同様、今なお深
い霧の彼方の存在なのです。

おわりに

三峯神社は、長瀨の宝登山神社・秩父
市の秩父神社と並び秩父三社の一社で、
千九百年程前に日本武尊が東征の途次、
国生みの神、イザナミ・イザナギの二神
をお祀りし創建した場所がここ三峯神社
といわれます。その折、日本武尊がこの
地の山中で道に迷っていた時、現れた狼
（ヤマイヌ）に案内され事なきを得たと
いいます。全国の多くの神社の鳥居の近
くなどには一対の狛犬が鎮座しておりま
すが、三峯神社では狛犬ではなく「お狗
さま」です。

最後に三峯神社での見どころ、お勧め
内容をいくつか紹介しましょう。



三峯神社の狛犬

一、毎年、十五夜・十三夜当日は夕方
より、神社の境内に特設会場が設けられ、
月讀祭が盛大に執り行われます。祭壇に
は供物が供えられ、篝火が焚かれる中、
平安時代に成立した古式豊かな雅楽の演
奏に合わせ、巫女たちの舞が披露され宴
席も設けられる優雅な行事で、毎年多勢
の参加者で賑わいます。

二、秩父地方の各地では雲海が楽しめ
ますが「三峰の霧」同様、当神社の各所
で望む壮大な雲海は、他では体験できな
い思い出に残る素晴らしいものです。嬉
しいことに、当神社では日帰りの入浴温
泉も楽しめます。

三、当神社の「白いお守り」は、拝殿
前の石段下両脇に聳える樹齢八百年とい
われるご神木の気が籠められた靈験あら
たかな上、毎月一日のみ限定で入手でき
るこのお守りを求め、毎回長時間の行列
を要する人気の高いものです。

三峯神社は秩父市内から四十キロも離
れた山奥に位置し、参拝用の登山道およ
び、ケーブルカーが廃止された今、西武
秩父駅から一日四往復のバス便が運行さ
れております。その西武秩父駅構内にこ
の程入浴施設・「祭りの湯」が新規オー
プンし、観光を兼ねた多くの人たちにも
喜ばれております。